

平成27年第1回千葉市史跡保存整備委員会 議事録

1 日 時 平成27年5月26日(火) 午前10時00分～午前11時30分

2 場 所 千葉ポートサイドタワー12階 第2会議室

3 出席者 (委員)

岡本委員(委員長)、青木委員(副委員長)、設楽委員、高橋委員、
竹内委員、中村委員

(事務局)

志村教育長、大崎生涯学習部長、志保澤文化財課長、飛田文化財課担当課長
芦田文化財課長補佐、堀越加曾利貝塚博物館長、その他事務局職員

4 議 題

議事

- (1) 委員長及び副委員長の選任
- (2) 部会の設置について
- (3) 部会委員の選任について

事務局説明

- (1) これまでの史跡整備計画について
- (2) 今後のスケジュールについて

5 議事の概要

議事

- (1) 委員長及び副委員長の選任

委員の互選により、岡本委員が委員長に青木委員が副委員長にそれぞれ選任された。

- (2) 部会の設置について

千葉市史跡保存整備委員会設置条例第7条第1項に基づき、「史跡加曾利貝塚総括報告書編集部会」及び「史跡加曾利貝塚保存活用計画策定部会」を置くこととした。

- (3) 部会委員の選任について

千葉市史跡保存整備委員会設置条例第7条第2項及び第3項に基づき、部会の委員は委員長が指名することが確認され、各部会に臨時委員を置くことが了承された。

事務局説明

- (1) これまでの史跡整備計画について

事務局から資料に基づき説明した後、質疑応答、意見交換を行った。

- (2) 今後のスケジュールについて

事務局から資料に基づき説明した後、質疑応答、意見交換を行った。

6 会議経過

開会

(飛田担当課長)

それでは定刻となりましたので、ただいまより、平成27年第1回千葉市史跡保存整備委員会を開催させていただきます。私は本日の進行役を務めさせていただきます文化財課特別史跡推進担当課長の飛田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この委員会は、本市の条例により公開とさせていただきます。また議事録は事務局が作成した案を出席委員にご確認いただき、委員長の承認により確定いたします。

それでは開会にあたりまして、志村教育長よりご挨拶を申し上げます。

(志村教育長)

おはようございます。大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。教育長の志村でございます。平成27年第1回千葉市史跡保存整備委員会の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

このたび皆様におかれましては、大変お忙しい中、本委員会の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。

すでにご承知のことと思いますが、本市は加曽利貝塚をはじめとしまして、国指定の史跡が5つございまして、そのすべてが縄文時代の貝塚であることなど、まさに貝塚のまちとして、世界的に見ても大変すばらしい歴史に育まれたまちであると自負しているところでございます。

このような史実を郷土の歴史遺産として、本格的に千葉市民のアイデンティティの確立に向けた事業がスタートしたところでございます。本委員会は加曽利貝塚の特別史跡に向けた議題を中心といたしまして、市内の各史跡の整備・活用につきまして、それぞれ専門的な見地からご指導いただくことを目的に設置したものでございます。委員の皆様にはどうか忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。これから先、どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございます。

(飛田担当課長)

それでは、事務局の職員を紹介させていただきます。

【職員紹介】

委嘱状の交付

(飛田担当課長)

続きまして、委嘱状の交付に先立ちまして、本委員会の所掌事務について、ご説明申し上げます。別添の資料をご覧ください。

【別添資料に基づき、事務局から説明】

(飛田担当課長)

それでは、志村教育長から委嘱状を交付したいと存じます。恐れ入りますが、お名前を呼ばれた方から前にお進みください。では、お呼びします。

【各委員に委嘱状を交付】

(飛田担当課長)

委員の皆様には2年間となりますが、どうぞよろしく願いいたします。また本日、千葉大学教授の赤坂委員につきましては、ご欠席の連絡を受けておりますので、委嘱状は別途お渡しさせていただきます。

委員紹介

(飛田担当課長)

ここで改めまして、委員の皆様をご紹介いたします。大変恐縮ではございますが、お名前を呼ばれた方はその場でご起立いただき、一言ご挨拶を頂戴したいと存じますので、よろしく願いいたします。50音順でお呼びいたします。サイバー大学客員教授、青木委員。

(青木委員)

青木と言います。よろしくお願ひします。加曾利貝塚の史跡の整備には長い間、関わってききましたので、これからもよりよいものができるように協力させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(飛田担当課長)

ありがとうございます。千葉大学名誉教授、岡本委員。

(岡本委員)

岡本でございます。どうぞよろしくお願ひします。千葉市の史跡とは長く関わってまいりまして、ようやくいい機会がきたのかなと非常に嬉しく思っています。

(飛田担当課長)

ありがとうございます。東京大学教授、設楽委員。

(設楽委員)

設楽と申します。専門は縄文時代から弥生時代にかけてでございます。どうぞよろしくお願ひします。

(飛田担当課長)

ありがとうございます。早稲田大学教授、高橋委員。

(高橋委員)

おはようございます。高橋でございます。このたびは千葉市史跡保存整備委員会のメンバーに加えていただきまして、身の引き締まる思いでございます。またすばらしい委員の方々と一緒にできること、大変嬉しく思います。どうぞよろしくお願ひします。

(飛田担当課長)

ありがとうございます。千葉市中央市街地まちづくり協議会会長、竹内委員。

(竹内委員)

竹内でございます。どうぞよろしくお願ひします。私は考古学が専門ではございませんが集客の部分で頑張ればと思っています。よろしくお願ひします。

(飛田担当課長)

ありがとうございます。日本自然保護協会参与、中村委員。

(中村委員)

中村でございます。千葉県立中央博物館で30年務めましたけれども、生態学の研究をしております。千葉市の自然環境の総合調査も行いましたが、千葉の自然の特徴というのは、谷津田の里山や、またほとんどなくなってしまいましたが、東京湾の干潟の里海があげられます。東京湾の豊かさは世界一だと思ってやってきましたが、その裏付けというのは、湾岸地域の貝塚の密度が世界一だからということだと思っています。このたびは貝塚を保存するというので、ぜひ頑張らせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(飛田担当課長)

委員の皆様、ありがとうございました。

なお、本日の会議につきましては、千葉市史跡保存整備委員会設置条例第5条第2項により、委員半数以上のご出席をいただいておりますので、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

ここで、志村教育長におかれましては、所要のため、退席いたします。

(志村教育長)

先生方に委員になっていただき、心強く思っております。どうか成果が出ることを期待しております。よろしくお願いいたします。

【志村教育長 退席】

議題（1）委員長及び副委員長の選任

(飛田担当課長)

それでは次第にしたがいまして、これより議題に入らせていただきます。

まず、初めに当委員会の委員長と副委員長の選任を議題といたします。なお、委員長が決まるまでの間、大崎生涯学習部長に進行を務めていただきたいと存じます。

それでは、大崎生涯学習部長、よろしくお願いいたします。

(大崎生涯学習部長)

生涯学習部長の大崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。委員長が決まるまでの間、進行役を務めさせていただきます。

それでは委員長の選任でございますが、史跡保存整備委員会設置条例第4条第2項によりまして、委員の互選となっております。いかが取り計らったらよろしいでしょうか。

(設楽委員)

加曽利貝塚は縄文時代の大変有名な貝塚です。その整備ということですので、縄文時代に大変ご見識のある岡本委員を推薦したいと思っております。

(大崎生涯学習部長)

ありがとうございます。ただいま設楽委員より岡本委員にお願いしてはどうかという発言がございましたが、いかがでしょうか。

【異議なし】

(大崎生涯学習部長)

ご異議ないようでございますので、岡本委員に委員長をお願いしたいと存じます。

それでは岡本委員長、委員長席のほうにご移動をお願いします。

ここで、岡本委員長よりご挨拶をいただきたいと存じます。どうぞよろしくをお願いします。

(岡本委員長)

先ほどもご挨拶させていただきましたが、加曽利貝塚の特別史跡に向けて、今回の委員会が設置され、本格的に動き出すということを知っております。加曽利貝塚と言えば、教科書に載って皆さんに周知されているところがございますが、これからどのように特別史跡に向かっていくのか、なおかつ、加曽利貝塚をどのように整備していくのか、新たな段階に入っていくと思います。本委員会には、グローバルな立場、視点をお持ちの先生方に集まっておりますので、どうぞ、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

(大崎生涯学習部長)

ありがとうございます。それではここからの議事進行につきましては、岡本委員長にお願いしたいと存じます。

(岡本委員長)

それでは議事を進めさせていただきたいと思ひます。続きまして、副委員長の選任について、こちらも委員の互選となっておりますが、いかがでございましょうか。

(高橋委員)

先ほど、岡本委員長からグローバルな視点で史跡整備をやっていくという方針をお示しになりました。これは大変重要なご意見だと思います。ましてや千葉県は日本の玄関でございます。そういった国際性豊かなご経験と史跡保存に精通しております青木委員を副委員長に推薦いたします。

(岡本委員長)

どうもありがとうございます。これについてはいかがでしょうか。

【異議なし】

(岡本委員長)

それでは青木委員に副委員長をお願いしたいと思ひます。青木副委員長、副委員長席へ移動をお願いします。

青木副委員長、ご挨拶をお願いします。

(青木副委員長)

先ほども申し上げましたけれども、私は長い間、加曽利貝塚に関わらせていただきました。その中で学芸員の頑張りというのが非常に印象に残っておりまして、今回も特別史跡を目指す中で保存管理計画を将来に向けて作っていくということで、ずっと関わってきた人間としては嬉しい、大変ありがたいことと思ひています。これからその計画が長続きするように、よりよい計画を作っていきたいと思ひしておりますので、よろしくお願ひします。

議題（２）部会の設置について

(岡本委員長)

それでは議題に戻りまして、次は議題の（２）、部会の設置についてということで、これは条例に部会を設置できるという規定がございますので、まず事務局からご説明いただきたい

と思います。

【資料2に基づき、事務局から説明】

(岡本委員長)

事務局の説明を整理すると、この委員会の下に部会を設置するという事で、加曾利貝塚の総括報告書を作成する部会と、保存管理計画を作成する部会、2つの部会を設置するという事でございました。設置条例によれば、この委員会で部会を置くことについて判断するとあります。私から質問ですが、具体的な所掌事務はどのようなことになるのでしょうか。

(飛田担当課長)

まず人数ですが、総括報告書編集部会と保存管理計画策定部会ともに7名程度を考えております。加曾利貝塚の特別史跡申請に向けて、総括報告書の刊行と保存管理計画の策定について準備を進めていきたいと考えております。

(岡本委員長)

各部会で審議した内容は、この委員会に報告を受けて、さらに審議するという事なのではないでしょうか。

(志保澤文化財課長)

この委員会の決定をもって部会の決定とするということでございます。こちらにいる委員の皆様には、どちらかの部会に入って審議していただきまして、報告書の編集と保存管理計画の策定に携わっていただきたいと思います。また、部会には必要に応じて臨時委員を入れて、7名程度で作業を2年間かけて進めていきたいと考えております。

(岡本委員長)

この委員会が最終的な決定の場であって、部会ではそれぞれのここにおられる委員の皆様に入っていただいて、そこで議論していただくということですね。他にご意見はありますか。

(青木副委員長)

文化庁が従来は保存管理計画と呼んでいました名称を、最近は保存活用計画に変えるというような話を聞いたのですが、その点については、これから様々な書類を作成する整合性を保つために、部会の名称を変更することは検討しなくてよろしいでしょうか。

(岡本委員長)

その点について、事務局ではどのようにお考えですか。

(飛田担当課長)

本市では対外的に説明する際、これまで保存管理計画と呼んできましたが、ただいま青木副委員長からご指摘いただきましたので、ここで委員の皆様にご承認を得られるのであれば、部会の名称を保存活用計画策定部会に、策定する計画の名称を保存活用計画に改めたいと考えております。

(岡本委員長)

それは名称だけの問題ですよ。内容が何か変わるわけではないですよ。

(飛田担当課長)

名称だけの問題でございます。

(岡本委員長)

そうすると、正式な部会名は史跡加曽利貝塚保存活用計画策定部会となるということでしょうか。他にご意見はございますか。

【異議なし】

(岡本委員長)

それでは、一部名称の変更はございますが、条例第7条第1項、必要に応じて部会を置くことができるという規定に基づいて、部会を設置することにいたします。

議題(3) 部会委員の選任について

(岡本委員長)

それでは続きまして、議題の(3)部会委員の選任についてでございますが、部会の設置については、今、決定しましたので、部会の委員を選任することになります。まずは事務局より説明いただけますでしょうか。

【事務局から説明】

(岡本委員長)

ただいまの事務局からの説明ですが、部会には7名程度の委員を予定しており、部会の委員は委員長が指名するとあります。これは条例上、委員長が指名するとありますが、具体的に事務局として部会委員の原案などはございますか。

(志保澤文化財課長)

事務局側としての一つの考え方でございますが、先ほど保存活用計画ということができましたが、活用というのは今まで文化財は保護することをメインにしていたのですが、少しでも地域の方に還元する、文化財を起点にして、特に観光など少しでも地域の活性化につなげてほしいという文化庁の思いがあって、そういう名称に変えてきたのだと思います。本委員会の委員になっていただいた方の中で申し上げますと、竹内委員におかれましては、中心市街地の活性化の中でどうやって地域の活力を生み出すかというところにご尽力いただいている方で、これから加曽利貝塚の特別史跡を進め、保存活用計画を策定する中で、どうやって史跡を活用していったらいいのかということにご意見いただけることを期待して、保存活用計画策定部会に入っていただければと考えております。

続いて中村委員におかれましては、自然環境の分野で非常に見識をお持ちで、ご存じのとおり加曽利貝塚というのは縄文時代から非常に自然が守られてきた場所であります。史跡だけを保護するのではなく、その周辺の自然一帯もいかに後世に伝えていくかということも重要な視点と考えるので、保存活用計画策定部会のほうに入っていただきたいと考えております。

また、本日はお見えになっておりませんが、赤坂委員におかれましては、他市でも保存活用計画に携わった経験があり、かつ加曽利貝塚は北貝塚が公園に指定されている部分もあるのですが、造園学の有識者でございますため、ぜひ保存活用計画策定部会に入っていただければと考えております。

青木副委員長におかれましては、これまで貝塚の貝層断面の保存技術や、住居跡観覧施設の保存など、実際に加曽利貝塚で作業していただいている経験もあります。今、申し上げた

4名の委員の皆様には、保存活用計画策定部会に入っていただければと思っております。

もうひとつの総括報告書編集部会ですが、こちらは考古学の分野で、日本の歴史の中で加曽利貝塚がどれだけ重要かということを実証しなければならないという中で、文化庁との協議では、加曽利貝塚だけを見るのではなく、もっとアジア全体を見渡して比較することや、縄文時代と弥生時代の比較など、先ほど設楽委員からも弥生時代も専攻しているとお話もありましたが、時代も違い、エリアも違う中で特異な縄文時代の貝塚文化、特に加曽利貝塚は重要なんだということを実証できればと思っておりますので、考古学を専攻されている委員の皆様には、総括報告書編集部会に入っていただければと考えております。

さらにご検討いただきたいことは、総括報告書編集部会と保存活用計画策定部会で完全に委員の皆様が分かれてしまいますと、保存活用計画のほうも考古学の見地からどのように保存していくかということも重要だと思いますので、どなたかには大変だと思いますが、両方の部会に入っていいただく必要があると考えているところでございます。

また、保存活用計画を策定するにあたって、地域の方々にも納得していただける計画にしなければならないというところで、すでに加曽利貝塚は地域の方々の憩いの場として活用いただいている経緯もございますので、保存活用計画策定部会には地域の代表者を入れて、その方の意見も参考にして計画を策定していきたいと考えております。

(岡本委員長)

ありがとうございました。今、ご説明がありましたように、委員会の委員はそれぞれどちらかの部会に所属して議論いただくということですね。また、委員会の委員だけでなく、必要に応じて臨時委員を置く考えも事務局にはあるようですが、その点について、事務局より再度ご説明いただけますか。

(飛田担当課長)

ただ今、志保澤課長から話がありましたとおり、部会の委員を選任していくということで、特に報告書については、内容の濃いものにしていく必要があると認識しています。縄文時代の時代観を大きく変えていくものにする必要があると考えております。先ほど岡本委員長や高橋委員からもあったように、日本の、それも関東地方の縄文貝塚として取り扱おうとは考えておりません。世界的な視野で見たときにどのような位置付けにあるのか、日本列島の中の貝塚ということだけではなくて、グローバルな視野で加曽利貝塚を考えていきたいと考えておりますので、そういった視点をお持ちの有識者に臨時委員をお願いしていきたいと思っております。

(岡本委員長)

ありがとうございました。それでは臨時委員を含めた形で部会委員を選任していきたいと思いますが、事務局の原案は提示することは可能でしょうか。

(飛田担当課長)

原案につきましては、事務局で作成しているところでございますが、今回は臨時委員を置くことについて了承いただき、人選については後日、詰めさせていただければと考えております。

(岡本委員長)

それでは出席されている委員の皆様も、自分がどちらの部会に入るかわからないと思うのですが。本日資料として提示できなくても、原案だけでも伺えないでしょうか。そうでないと、今いらっしゃる委員がその部会は入りたくないなど意見が出てしまう可能性もあります。変更がありうるかもしれませんが、委員の方々も皆さん、それぞれお忙しいと思いますし、都合というものもあるでしょうから。

(志保澤課長)

それでは、あくまで事務局の原案であるため、参考としてお聞きください。

まず、保存活用計画策定部会ですが、青木副委員長、本日はご欠席でございますが赤坂委員、設楽委員、高橋委員、竹内委員、中村委員の6名の委員に入っていただきたいと考えております。

次に総括報告書編集部会ですが、岡本委員長、それから保存活用計画との整合性も必要であることから、大変負担をかけるようで申し訳ないのですが、高橋委員にこちらの部会にも入っていただきたいと考えております。

そして、2つの部会とも必要に応じて臨時委員を入れていきたいと考えております。

(岡本委員長)

ありがとうございました。さらに踏み込んで聞いてしまいますが、臨時委員についても原案があれば、候補者を伺いたいと思いますが、可能でしょうか。

(志保澤課長)

こちらもおくまで事務局の原案としてお伝えいたします。

保存活用計画策定部会ですが、先ほどお伝えした6名の委員に加え、地元自治会の代表者を入れたいと考えています。

それから総括報告書編集部会ですが、岡本委員長、高橋委員に加え、明治大学の石川日出志教授、京都大学の泉拓良特定教授、東京大学の犬貫静夫教授、慶應義塾大学の佐藤孝雄教授、国立歴史民俗博物館の藤尾慎一郎教授を考えております。それぞれ広い見識をお持ちの先生方ばかりですので、ご了解いただければ、臨時委員として入れていきたいと考えております。

(岡本委員長)

よく分かりました。そういったことを事務局が原案として持っているということですので、進めていってもらえればと思います。

事務局説明(1) これまでの史跡整備計画について

(2) 今後のスケジュールについて

(岡本委員長)

次に、事務局説明ですが、この委員会と新しく設置する2部会のスケジュール等について、事務局から説明をお願いします。

【参考資料1、2-1、2-2に基づき、事務局から説明】

(岡本委員長)

ただ今の説明について、ご意見はありますか。

(中村委員)

今までの説明を受けて整理したいのですが、言葉上の問題かもしれませんが、保存管理という言葉が少しひっかかったのですが、考古学的な貝塚を中心とした文化財をきちんともっと大きく評価しようということを市では目指していらっしゃるのかなと思います。もう一つは活用という面で、保存管理に何か課題があるのか、今まで保存管理をちゃんとやられてこなかったのかと、それを何とかしなければならないのかと単純に思ってしまっていたのですが、今話を聞いているとそういうことではなさそうですね。

(岡本委員長)

そうですね。将来的なビジョン、計画を示す必要があるということですね。

(中村委員)

分かりました。そうすると評価と活用を目指すのが、この保存整備委員会で、総括報告書っていうのはわからなかったのですが、学術的なグローバルな視点で評価をするのが総括報告書編集部会ということですよ。活用というのは、保存もしっかりやらなければなりません、多くの人に加曽利貝塚の重要性を伝えていくことが、もうひとつの保存活用計画策定部会であるということでしょうか。そういうことをしっかりやっていくためにこの委員会の下に2つの部会があるという、そういう軸があるということかと思ったのですが、そういう整理でよろしいですか。

(飛田担当課長)

おっしゃるとおりでございます。

(岡本委員長)

もう一度整理させていただきますが、加曽利貝塚の学術的な価値を位置付けて証明するのが総括報告書編集部会で、活用を含めて史跡のあり方と整備計画を進めていくのが保存活用計画策定部会ということで、中村委員がおっしゃられたのは、こういうことでよろしいですか。

(中村委員)

そういうことです。ありがとうございます。それから考古学的な評価というものは貝塚なのでわかるのですが、やはり人と自然と文化の関わりの中で、私は生物多様性ということをやっていますが、そういう意味での評価というものも総括報告書の中に盛り込んでもらってもいいのかなと思います。報告書と聞きますと最初にイメージしたのは、発掘調査の報告書かと思ったのですが、そうではないことが今の説明でわかりました。今までの知見を総動員して、加曽利貝塚の価値をもう一度証明していく報告書ということですね。

また、保存のほうですが、千葉市だと縄文の森構想という計画がありましたね。やはり活用という、費用をかけないで人をたくさん集めるという短絡的なものではなくて、加曽利貝塚の保存というものを、例えば縄文の森構想も含めて計画していくということでしょうか。

(志保澤文化財課長)

中村委員が今おっしゃられた縄文の森構想でございますが、これは市の公園行政側が作成した計画でございます。遺跡をうまく公園の中に取り込んでということが趣旨でございます。現在は史跡エリアを除いた部分は特別緑地保全地区として保存していく計画に切り替え

まして、加曽利貝塚の史跡エリアにある緑地は、教育委員会が所管しておりますので、こちらのほうでどうやって史跡を守り伝えていくかということで、今回この保存活用計画を策定する運びとなっております。

(中村委員)

貝塚の考古学的な部分と、きわめて豊かな自然の中での人の営み、その結果、素晴らしい貝塚が形成されたということが証明できれば、やはり国の中でも特別なものになるのかなと思います。市として、どこまで目指すのかということを確認したかったのですが、今までの説明でよく分かりました。

(岡本委員長)

そうすると、縄文の森構想は一度切り離して、文化財サイドで改めて自然と文化というものを位置付けていくことは、この委員会の中で検討していければということですね。

他の委員の方々は、この2つの部会を運営していくことに対して、何かご意見はございますか。この特別史跡には、この委員会や部会の委員の意見だけでなく、市民の盛り上がりも非常に重要と考えますが、そういったところ、竹内委員にご意見を伺ってみたいと思いますが、いかがですか。

(竹内委員)

今までの意見を伺っていて言葉が当たっているかわかりませんが、地域の魅力がある意味では埋もれてしまっていて、なかなか表に出てきていないということで、戦略を立ててブランド化をしていくことも大事かなと思います。そのためには誘客戦略も、ひとつの柱になっていくのかなと思います。学術的な部分については、市民の方々に貝塚の理解をいかに高めていくかということは、今からやっていくとしたら大きい問題かなとも思います。

(岡本委員長)

市民の盛り上げをどうしていくかということも含めて、竹内委員にはこれからご意見をいただいきたいと思います。設楽委員はどうですか。

(設楽委員)

今までの話を聞いていて、やはり縄文文化は森に依存しながら形成されてきたことが非常に強いと感じています。そうしますと、先ほどのお話の中で総括報告書編集部会の臨時委員の中に動物考古学を専攻しておられる佐藤先生の名前が挙がりましたが、植生の分野の方にも入っていただいたほうがいいのかと思います。それから先ほどの臨時委員の中で再度整理したいのですが、地元自治会の方は総括報告書編集部会に入られるのでしょうか。

(志保澤文化財課長)

地元自治会の代表の方は、保存活用計画策定部会に入ってください予定です。地域の方が実際に加曽利貝塚を利用している事情など、ある程度意見を集約できる方に入っていただきたいと考えています。

(設楽委員)

保存活用計画策定部会のほうですね。わかりました。

(岡本委員長)

高橋委員はどうですか。

(高橋委員)

史跡保存委員会と2つの部会で総合的な活用の中で、加曽利貝塚をはじめ千葉市内の史跡の有効活用を考えていることがよく分かりました。文化庁でよく話題になる歴史文化基本構想の中でも地域の方々に理解していただいて、地域のアイデンティティになるようにとの話もあります。これは大事な視点でありまして、学術的にいかに優れたものであっても、地元で何の理解もされていないのでは、これは本末転倒になってしまいますので、そういった見方が非常に重要だと思います。

それから縄文の森構想の話もありましたが、やはり森というのは設楽委員がおっしゃったように千葉県の千葉市の縄文時代を語るうえで、重要なファクターになることに違いありません。ですので、どなたか植生を専門にしておられる方が必要かなと思います。

それと検討する中での視点として、中村委員が先ほど、人と自然と文化ということをおっしゃられていましたが、私はそれにもうひとつ社会という視点があってもいいのかなと思います。特に千葉市の東京湾に面したこの地域では、環状貝塚をはじめ、世界的に見てもそうそうたる大貝塚です。ましてや直径100mを超えるような大貝塚というのは、私が知っている限り、まずありません。なぜ、あの時代、この地域にそういった社会が展開したのか、これは単に自然環境が整っていたからとか、食料が豊かだからとか、それだけでは語れないもっと他のファクターがあります。それをきちんと位置付けていくことによって、私は学術的にも、これは世界に発信できる重要な史跡になり得ると思っています。

(岡本委員長)

そういった社会環境についても、高橋委員から意見をいただいていたいですね。

それと会議運営の中で文化庁や千葉県の関わりというのはあるのでしょうか。

(飛田担当課長)

2つの部会には両者にオブザーバーとして参加していただく予定です。

(岡本委員長)

ぜひ、会議に参加していただいてご意見いただければと思います。

それから、現在の再整理の状況というのはどうなのでしょう。

(飛田担当課長)

これまで再整理を進めてきて、非常に多くの遺物がありまして、そのすべてに目を通して、その中から総括報告書に盛り込む内容のものをピックアップして、それぞれ写真撮影や図版作成などを行っております。また、総括報告書編集部会の中で可能であれば、再整理を進めております埋蔵文化財調査センターを訪問して、具体的な進捗状況をご説明し、ご意見をいただきたいと考えております。

(岡本委員長)

ではすでに総括報告書の目次案などはできているのでしょうか。

(飛田担当課長)

事務局として、すでに原案はできておりますので、総括報告書編集部会の中でご説明させていただければと思います。

(岡本委員長)

わかりました。青木副委員長、どうぞ。

(青木副委員長)

保存活用計画について、加曽利貝塚や周辺の貝塚の保存の問題ですが、これはこれから総括報告書編集部会の中で出てくる話だと思いますけれども、ストーリーを具体的に示してほしいと思います。そのストーリーや価値付けによって、保存活用計画の内容も変わってくると思います。地域の方などに説明するときもそのストーリーに沿って説明したほうが分かりやすいと思います。保存の技術的なことは保存活用計画策定部会の中で考えていきます。

(岡本委員長)

2つの部会とも整合性を持って進めていかなければならないですね。部会についても、基本的に任期は2年なのでしょうか。

(志保澤文化財課長)

基本的にはそのように考えております。

(青木副委員長)

加曽利貝塚やその周辺を整備するにあたって法的な規制は何かあるのでしょうか。

(飛田担当課長)

先ほどご説明した特別緑地保全地区の問題などはありますが、そういった法規制の問題は事務局から部会に報告させていただきまして、ご検討いただければと考えております。

(中村委員)

加曽利貝塚が特別史跡を目指すにあたって、目標というか、モデルケースなどがあってもいいのではと思いますし、景観を見せるということも大事な視点だと思います。例えば、加曽利貝塚でいえば森だけでなく、海も大事な要素だと思います。実現可能かどうかという問題もありますが、そういった視点での構想自体に意味があると思います。

(設楽委員)

私も全く同じことを考えておったのですが、ビジョンがあれば活用の方法も変わってくると思います。せっかくの構想ですから、少し壮大な計画でもいいのかなと思います。それから、将来的な博物館構想についても検討していく必要があると思います。

(岡本委員長)

ありがとうございます。博物館のあり方についても、ぜひ事務局で検討をお願いします。

また、文化庁の日本遺産という事業がありますが、それとは別に、千葉市の貝塚群としてストーリーを作っていければいいなと考えています。特別史跡申請と平行してやっていくことは非常に大変だと思いますが、この機会に話をさせていただきました。個人的には、まず特別史跡ですが、今後の史跡のモデルとなるように事務局と一緒に進めていければと思います。

(高橋委員)

もうひとつよろしいでしょうか。報告書の件ですが、今まで加曽利貝塚の調査報告書というものは刊行されておりますが、それに加えてまた新しいものを刊行するのか、もしくは総括したものを刊行するのでしょうか。

(飛田担当課長)

基本的には後者でございます。どちらかというとな今までの調査報告書はある地点の部分的なものでしかなかったの、その内容は踏襲していきませんが、新たな研究方法や分析成果を踏まえてその結果を入れていきます。また、それだけではおそらく加曽利貝塚の全容はわからないと思いますので、どういった部分が未だ不明なのか、そういうところもきちんと記して、今後の調査に繋げていける報告書にしたいと考えております。ですので、この総括報告書が刊行されて終わりではなく、これをきっかけにまた発掘などの調査が進められればとも考えております。

(岡本委員長)

遺跡といえば、発掘しているイメージがありますが、加曽利貝塚は実際、そんなに発掘されていないのですよね。未だ解明されていない部分も総括報告書にきちんと入れていきたいと思ひます。

(中村委員)

例えば、今現在で新しい革新的な発見があったということはないのですか。

(飛田担当課長)

残念ながら、現在のところ再整理作業の中でそういった報告はありません。ただ、一万年続いた縄文時代やその文化の評価というのは、本日出席いただいた委員の皆様の方が詳しいと思ひますが、あまり高くないと思ひます。そういった縄文時代の世界観を変えるような内容は秘めていると思ひます。

(中村委員)

これは勝手な私の憶測ですが、当時、東京湾沿岸の人口は世界的に見ても非常に多いのではないのでしょうか。そういったことがわかれば、人口数や社会の安定というものを世界に誇れるのではないかと思ひます。

(竹内委員)

委員の皆様意見を聞いて、2年間部会をやっていくという中에서도目標を設定したほうが良いのかなと思ひます。段階的にステップアップしていくにしても、目指すものがないとやりにくいのではないかと思ひます。

(岡本委員長)

確かに竹内委員のおっしゃるとおりだと思ひます。そのあたりにつきましては、それぞれの部会の中で定めていきたいと思ひます。

それでは、他にご意見ないようございまして、本日、赤坂委員は欠席でございましたが、本日の議事を終了いたします。それでは進行を事務局にお返しいたします。

(飛田担当課長)

本日は大変お忙しい中、長時間、ご審議いただき、誠にありがとうございました。

以上を持ちまして、平成27年第1回千葉市史跡保存整備委員会を閉会いたします。

——了——